

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【琵琶湖開発】

平成26年 3月

水資源機構 関西支社

【琵琶湖開発】

1. 事業の概要

特になし

2. 治水

特になし

3. 利水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
3.4 利水の評価 本編 P3-14	<ul style="list-style-type: none">・降雪・融雪の変化が利水にどのような影響を与えているのか、という観点で検討・整理して欲しい。・現在の記述でも、彦根気象台のデータ等客観的な事実は示されているが、降雪量と春の水位上昇・梅雨期の雨量と夏の渇水の間、どのような関係があるのか、といった琵琶湖の水位変動のメカニズムについてはわかりにくいと思われる。・融雪による北湖への流入水が、琵琶湖の循環に強い影響を持っていることから、それが多年的に変化しているのか、また、流域内の他のデータとの関係はどうなっているのか、についてデータがあるなら検討して欲しい。	<ul style="list-style-type: none">・降雪量や流入量の減少、それに伴う滞留時間の増加など影響は出ていると考えられるが、複雑な事象であるため、関係機関と調整しながら整理する。	流域内の気象・水文データや既往検討の文献等の収集を行い、気候変動の影響について整理を行う。

4. 水質

特になし

5. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.2 生物相の経 年変化 沈水植物 本編 P5-37	<ul style="list-style-type: none"> ・沈水植物の生育範囲が広がっているという説明の後に、ホシツリモの発見など琵琶湖の水質が改善しているという説明があったが、琵琶湖の水質改善と沈水植物の増加に直接の関係はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホシツリモは、北湖の安曇川沖で生育が確認されており、北湖の透明度や水質が改善している。南湖についても透明度が改善していることから、細かな因果関係までは把握できていないが、両者の間に何らかの関係はあるのではないかと考えている。 	—
5.2 生物相の経 年変化 外来種 本編 P5-165	<ul style="list-style-type: none"> ・定期報告書を見ると、外来魚の捕獲量が近年減少している。事業主体である滋賀県と協力して駆除に当たって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水機構独自の取り組みとしては、新浜ビオトープのように在来魚の育成の場で捕獲された外来魚は全量駆除するようにしている。琵琶湖全域を対象とした取り組みについては、滋賀県と共同して取り組んでいく。 	引き続きこれまでの取り組みを進めるとともに、広域的な外来魚駆除に向けた取り組みについては、滋賀県と情報共有すると共に、滋賀県に協力しながら共同して取り組む。

6. 環境保全対策

特になし

7. 周辺地域動態

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
7.4 周辺施設や 湖の利用状 況 本編 P7-35	<ul style="list-style-type: none"> ・アクア琵琶は、平成 23 年度から土日を休館にしているため、来館者が大幅に減少している。啓発活動という意味では、ファミリー連れの来館が期待できる土日こそ開館するべきではないのか。 ・アクア琵琶は、啓発活動の場として非常に効果的な場所であると考えている。難しいところはあると思うが、是非、土日の開館に向け検討を進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクア琵琶の運営に関わる費用の削減もあり、土日は休館にせざるを得なくなった。平成 25 年度からは、全ての土日という訳にはいかないが、土日に開館できるように検討・試行を行っている。 	土日の開館に向けて引き続き検討・試行を行う。